

令和3年度 神代植物公園植物多様性センター事業年報

公益財団法人東京都公園協会 神代植物公園 植物多様性センター長

田中 利彦

I. はじめに

植物多様性の衰退が懸念されている中、神代植物公園では他の植物園と連携して絶滅危惧植物の保護・増殖等を行う「植物多様性保全拠点園」としての活動に取り組んできた。

神代植物公園植物多様性センターは、都内における植物多様性保全をより一層推進するため、保全上の様々な機能を総合的に担う拠点施設となることを目的に、平成24年4月に開設された。

植物多様性センターの敷地は約26,000㎡あり、その中には情報館(650㎡)、学習園(16,000㎡)、栽培温室(200㎡)の施設がある。

情報館は、東京の植生図や丘陵地の公園を紹介するパネル展示や図書文献が閲覧できるライブラリーコーナー等、植物多様性に関する展示・解説を行っている。

学習園は、山地や石灰岩地を再現した奥多摩ゾーン、河原や雑木林を再現した武蔵野ゾーン、海岸や火山地形を再現した伊豆諸島ゾーンと、東京を代表する自然環境を再現した3つのゾーンを設け、それぞれの環境に合った植物を展示している。

開設当初から公益財団法人東京都公園協会が管理運営を受託し、平成28年度より指定管理者として職員7名の体制で執行している。

植物多様性センターの事業は、次の3つを軸に展開している。

1. 絶滅危惧植物の保護・増殖
2. 絶滅危惧植物に関する情報収集・発信
3. 植物多様性に関する教育・普及

絶滅危惧植物の保護・増殖については、平成19年度から25年度まで神代植物公園において「絶滅危惧植物保全調査」の検討と実施、及び「絶滅危惧植物保全計画」の策定を行い、都内の絶滅危惧植物の生育状況の把握と保全対象種の検討を行ってきた。当該計画では、植物多様性センターが重点的に保全する植物種を「優先保全対象種」として118種(本土部43種及び島嶼部75種)選定し、保全策に基づき、それら植物種の現地調査等の域内保全や種子採取・無菌培養等の域外保全を平成26年度から行っている。

絶滅危惧植物に関する情報収集・発信については、関係機関や保全団体とのネットワークを活かし、都内における絶滅危惧植物の現状と保全に向けた取組状況を把握した上で、情報拠点として各活動主体の保全・保護・増殖活動に有効な支援を行うことを目的としている。このため、保全団体や愛好家等との情報連絡会や公園管理者連絡会等を開催し、各団体等の取組について意見交換や情報交換を行っている。

植物多様性に関する教育・普及については、近隣の小中学校や農学系の大学生等へ環境学習プログラムを企画立案し、教育普及活動を行っている。また、土日には職員やボランティアによる園内のガイドツアーを実施するほか、職員や専門家による講座を開催している。

本報告は、植物多様性センターが令和3年度に実施した事業や取り組みを年報としてとりまとめたものであり、植物多様性センターへのご理解とご支援をいただく上での参考として、また今後事業や取り組みの進展を図る上で、技術の向上や事業の推進に役立たせることができればと考えている。

なお令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止を優先的に考慮しながら事業を展開した。そのため、島嶼部における調査や情報連絡会の対面開催の全面的な中止、またガイドツアーや講座等のイベントの一部中止といった措置を取ったことをここに記しておく。

II. 絶滅危惧植物の保護増殖に関する取り組み

1 優先保全対象種等の植物調査

(1) 本土部における優先保全対象種の調査

本土部において令和3年度に実施した優先保全対象種の調査を、以下に示した。

No.	調査日	種名	調査概要
1	5月24日	タチスゲ	2個体確認。
2	5月24日	オオニガナ	
3	7月9日	スギラン	1個体確認。大きな石灰岩の崖の角に着生しており、肉眼での観察は難しい。
4	7月9日	キバナノショウキラン	目的地までの道が途中で崩落し、上ることは事実上不可能。案内人のヒアリングによると、数年前は多数発生、以降現在まで発生は確認できていない。
5	7月9日	ウラジロヒカゲツツジ	1個体確認。案内人によると開花及び結実が確認されている。
6	7月9日	マツノハマネングサ	8個体確認。2015年調査から大幅に減少したが、以降個体数に変化はない。
7	9月14日	ゴマノハグサ	対象種の生育は確認できず。過去の生育地（2002年8月30日が最後の記録）
8	9月19日	ヒメナエ	アイナエの誤認だった。
9	9月19日	シラン	

(2) 島嶼部における優先保全対象種の調査

島嶼部については、新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため調査を実施しなかった。

2 東京都内における生息域外保全

これまでに植物多様性センターで実施した、東京都内における生息域外保全の実績を、以下に示した。

No.	種名	場所	採取日	備考
1	イズノシマホシクサ	島嶼部	H26年9月26日 種子採取 H30年8月29日 種子採取 H30年8月30日 種子採取	H26年より継続・栽培
2	ウチョウラン	本土部	H27年10月1日 種子採取	新宿御苑へ送付（しいな）
3	オオシマシユスラン	島嶼部	H27年1月20日 種子採取	新宿御苑へ送付
4	キキョウ	本土部	H27年9月30日 種子採取	新宿御苑へ送付
5	キンラン	島嶼部	H26年9月3日 種子採取	H26年より継続・無菌培養
6	クマガイソウ	島嶼部	H26年9月3日 種子採取 H30年9月11日 種子採取	H26年より継続・無菌培養 平成30年4月10日に人工授粉を行い、9蒴果のうち5蒴果を採取した。 新宿御苑、富山県中央植物園へ送付
7	コウズエビネ	島嶼部	H26年9月27日 種子採取	無菌培養、H26年より継続・無菌培養（2系統）
8	コウズエビネ	島嶼部	H27年10月5日 種子採取	新宿御苑へ送付・無菌培養（2系統）
9	シムライノデ	本土部	H30年2月15日 個体受取	栽培、危険分散のためつくば実験植物園へ送付
10	シラン	本土部	H27年9月15日 種子採取	案内人の依頼及び盗掘の恐れがあることから種子採取による域外保全を行った 新宿御苑へ送付、栽培
11	ナギラン	島嶼部	H26年9月3日 種子採取	H26年より継続・無菌培養（対象外だがキョンの食害で消失の恐れがあるため採取）
12	ナギラン	島嶼部	H28年10月27日 種子採取	H28年より無菌播種、新宿御苑へ送付
13	ナゴラン	島嶼部	H27年7月7日 個体受取	栽培
14	ナツエビネ	島嶼部	H29年11月8日 種子採取	新宿御苑へ送付、無菌培養
15	ニオイエビネ	島嶼部	H28年10月27日 種子採取	無菌培養、新宿御苑へ送付（自生地消失のため代替地で採取）
16	ハマカキラン	本土部	H28年8月6日 種子採取	新宿御苑へ送付

No.	種名	場所	採取日	備考
17	ヒイラギソウ	本土部	H27年9月30日 個体採取	挿し木にて栽培、H26年より継続・栽培
18	ヒナノキンチャク	本土部	H29年11月16日 種子採取	栽培、新宿御苑へ送付
19	ヒナワチガイソウ	本土部	H27年4月30日 種子採取	新宿御苑へ送付、生活史調査及び栽培
20	フウラン	島嶼部	H28年11月1日 種子採取	無菌培養
21	マメヅタラン	島嶼部	H26年9月26日 個体採取	H26年より継続・栽培
22	ミクラジマトウヒレン	島嶼部	H27年11月17日 種子採取	案内人の依頼により種子採取による域外保全を行った 新宿御苑、富山県中央植物園へ送付、栽培
23	ミズネコノオ	本土部	H27年10月14日 種子採取	案内人の依頼により種子採取による域外保全を行った 新宿御苑へ送付
24	ムサシノキスゲ	本土部	H29年7月13日 種子採取 H29年7月28日 個体採取	栽培、東京大学及び新宿御苑へ送付
25	ユウシュンラン	本土部	H28年1月22日 種子採取	指定対象種は過去の自生情報のみのため、 他の自生地から採種 新宿御苑へ送付・無菌培養
26	ハチジョウツレサギ	島嶼部	H30年10月6日 種子採取	新宿御苑へ送付
27	バアソブ	本土部	H30年10月3日 種子採取	新宿御苑へ送付、栽培
28	ハタザオ	本土部	H29年11月28日 種子採取	新宿御苑へ送付、栽培
29	シマキンレイカ	島嶼部	H30年10月7日 種子採取	新宿御苑へ送付
30	ウラジロヒカゲツツジ	本土部	H30年10月29日 種子、個体採取	新宿御苑へ種子送付、新潟県立植物園へ個体送付
31	カイコバイモ	本土部	R1年5月10日 種子採取	栽培、新宿御苑、筑波実験植物園へ送付
32	ツレサギソウ	本土部	R1年9月3日 種子採取	無菌培養
33	クロヤツシロラン	本土部	R1年12月17日 種子採取	無菌培養
34	フジバカマ	本土部	R2年12月25日 種子採取	栽培

3. 建設局事業等に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援

これまでに植物多様性センターで実施した、東京都建設局事業等に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援の実績を、以下に示した。

事務所 担当部署	植物種名 数量・規模	目標等	取組状況	着手
				完了（予定）
北多摩北部 建設事務所 工事第一課 設計担当	マヤラン サガミラン マヤラン8鉢 サガミラン6鉢	菌根株の形成確認、開 花	コナラ実生、腐葉土 に植えた鉢の維持管 理、共生可否の確認	平成24年6月1日（苗 木） 平成24年10月19日 （培養苗植付） 平成27年度
西部公園 緑地事務所 工事課 事業係	水生植物類 0.6m×0.9m バット 1基	発現種や生育状況に よって、継続した個体 の保護・増殖、もしく は現地への植え戻し	埋土種子発芽個体の 保護育成	平成24年12月11日 平成30年程度（状況 等による）
西部公園 緑地事務所 工事課 緑化推進担当	キンラン 三者共生：2鉢 二者共生：2鉢	委託業者のバックアッ プが枯れた場合は、整 備事業終了後、現地へ の植え戻しを予定	菌根菌・コナラ等苗 木との共生体の保護 育成、共生可否の確 認	平成25年5月26日 平成31年
第三 建設事務所 工事第一課 環境対策担当	アマナ プランター2基 （土嚢6袋分）	整備事業終了後、現地 への植え戻しを予定	個体の保護育成	平成27年6月24日 令和3年
西部公園 緑地事務所 工事課 事業係	水生植物類 0.6m×0.9m バット 4基	発現種や生育状況に よって、継続した個体 の保護・増殖、もしく は現地への植え戻し	埋土種子発芽確認、 発芽個体の保護育成	平成28年2月12日 平成30年程度（発芽 状況等による）
西部公園 緑地事務所 工事課 事業係	水生植物類 0.6m×0.9m バット 6基	発現種や生育状況に よって、継続した個体 の保護・増殖、もしく は現地への植え戻し	埋土種子発芽確認、 発芽個体の保護育成	平成30年3月11日 令和2年程度（発芽 状況等による）
北多摩南部 建設事務所 工事第一課 環境対策担当	希少植物 3g程度	事業終了後、現地への 播種を予定	種子の保存 （1～2年間で種子を 更新）	平成28年3月8日 令和13年

事務所	植物種名	目標等	取組状況	着手
				完了（予定）
公園緑地部 公園管理担当	タチクラマゴケ 100㎡に点在	工事区域内の個体調査	個体調査 保全の助言	平成29年6月16日
				平成29年7月1日
公園緑地部 緑化推進担当 第二建設事務所 工事第一課	クスノキ 中央分離帯の3本 分の種子、差し 穂	工事区域内の伐採対象 個体の増殖、植え戻し	街路樹植栽までの保 護育成	平成30年10月16日
西部公園 緑地事務所 工事課 緑化推進担当	キンラン 無菌培養苗約50 株（4シャーレ） 菌根菌の保存2系 統（3シャーレ） 二者共生苗20株	無菌培養苗の育苗、植 え戻し	無菌培養苗の育苗、 菌根菌の保存、二者 共生苗の育苗	令和2年3月23日
				令和2年10月7日
第二 建設事務所	キンラン 共生苗4鉢	工事区域内個体の保護	個体の保護育成	令和4年1月31日
				令和9年（工事の状 況等による）

Ⅲ. 絶滅危惧植物の情報収集・発信に関する取り組み

1 植物多様性センター蔵書数

植物多様性センターでは、情報館内ライブラリーコーナーにおいて、植物に関する書籍や保全団体発行の研究報告等の収集を行っている。これまでの収集実績を以下に示した。

年度	冊数
H24	187
H25	288
H26	215
H27	257
H28	63
H29	112
H30	87
H31	104
R2	130
R3	30
計	1,473

2 神代植物公園植物多様性保全に関する情報連絡会

植物多様性センターでは毎年、東京都西部公園緑地事務所と共催で、学識経験者や地域植物保全団体等との情報や意見の交換により、植物多様性保全事業に資することを目的とした情報連絡会を、本土部と島嶼部に分けて開催している。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、書面開催とした。ポスター・報告書等の提出団体数を、以下に示した。

	ポスター 報告書等提出団体数
本土部	22
島嶼部	9

3 ホームページの「お知らせ」

植物多様性センターでは毎週1回、ホームページの「お知らせ」を更新し、見ごろの植物を紹介している。令和3年度の「お知らせ」のタイトルを、以下に示した。

No.	更新日	タイトル	No.	更新日	タイトル
1	4月2日	タンポポの生存戦略	27	10月1日	タンキリマメとトキリマメ
2	4月9日	オトコヨウゾメの実生	28	10月8日	センニンソウのヒゲ
3	4月16日	ツクシとスギナ	29	10月15日	コシオガマの一生
4	4月23日	のっぼのシュラン	30	10月22日	アザミいろいろ
5	4月30日	もうひとつのマメ科の花	31	10月29日	イシミカワの意外な親戚
6	5月7日	手ごわいコゴメウツギ	32	11月5日	小型ミカンの中身
7	5月14日	コチャルメルソウの発芽	33	11月12日	秋のイボクサ
8	5月21日	ドクダミの総苞片のヒミツ	34	11月19日	サネカズラの実
9	5月28日	ウツギとハチの甘い関係	35	11月26日	ヤツデもうひとつの生態系
10	6月4日	2種のニワゼキショウ	36	12月3日	イヌビワの小さな生態系
11	6月11日	アカメガシワの花外蜜線	37	12月10日	ツワブキの花の構造
12	6月18日	果樹類の落果	38	12月17日	季節外れの花たち
13	6月25日	人間散布のヤブジラミ	39	12月24日	ホラシノブの紅葉
14	7月2日	ハンゲショウの夏化粧	40	12月31日	トチノキの冬芽の中身
15	7月9日	孤独のツノハシバミ	41	1月7日	赤い実総選挙？
16	7月16日	ヤブミョウガとミョウガは似た者同士？	42	1月14日	クロマツの種子
17	7月23日	ミズキンバイの謎の器官	43	1月21日	冬芽の雌雄性
18	7月30日	ウマノスズクサの秘密	44	1月28日	センダンの実、大繁盛
19	8月6日	東と西のヤブカラシ	45	2月4日	イヌハコベ現る
20	8月13日	ナンバンギセルの戦略	46	2月11日	アオキの実
21	8月20日	バアソブのポリネーター	47	2月18日	ノボロギクの旅立ち
22	8月27日	ヘクソカズラとハマサオトメカズラ	48	2月25日	アセビの花
23	9月3日	オカタツナミソウ	49	3月4日	ロゼットの金メダル
24	9月10日	カキノキ	50	3月11日	ネコヤナギの返信
25	9月17日	2種のスズメノヒエ	51	3月18日	続々・シバヤナギの性転換
26	9月24日	ハチジョウイタドリ	52	3月25日	オオバヤシャブシの花

IV. 植物多様性の教育・普及に関する取り組み

1 エントランス展示

植物多様性センターでは情報館内のエントランス展示を、年に数回更新している。令和3年度のエントランス展示の実施概要を、以下に示した。

期間	題
6月4日～9月5日	園内の水草
9月7日～12月5日	イネ科植物
12月7日～3月31日	植物の繊維

2 ガイドツアーの回数と参加者

植物多様性センターでは毎週土曜日・日曜日に、来園者を対象としたガイドツアーを実施している。令和3年度の実施回数と参加人数を、以下に示した。なお令和3年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため、令和3年4月～10月、及び令和4年1月～3月はガイドツアーを実施しなかった。

月	回数	参加人数
4	0	0
5	0	0
6	0	0
7	0	0
8	0	0
9	0	0
10	0	0
11	8	68
12	7	63
1	0	0
2	0	0
3	0	0
計	15	131

3 団体ガイド

植物多様性センターでは原則1か月に2団体を上限として、団体ガイドを実施している。令和3年度の実施状況を、以下に示した。なお令和3年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため、以前から予定されていた団体を除き、基本的に団体ガイドを実施しなかった。

No.	月	団体名	参加人数
1	10	逍遙の会	10
2	3	ブナの会	20
計			30

4 学習園植栽植物

令和3年度に来園者の観察・学習を目的として、温室やバックヤードから学習園に植栽した植物の一覧を、以下に示した。

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
1	4	ツルニンジン	管理	奥多摩借景
2	4	アヤメ	管理	奥多摩借景
3	4	クサボタン	奥多摩	落葉広葉樹林
4	4	ハンショウヅル	武蔵野	池回り
5	4	タムラソウ	奥多摩	石灰岩地
6	4	シラスゲ	奥多摩	落葉広葉樹林
7	4	ヌマトラノオ	奥多摩	池回り
8	4	ママコノシリヌグイ	奥多摩	池回り
9	4	ヒメウツギ	奥多摩	落葉広葉樹林
10	4	ヒメシャガ	奥多摩	落葉広葉樹林
11	4	バアソブ	奥多摩	落葉広葉樹林
12	4	ヒメシャガ	管理	奥多摩借景
13	5	ヤマアイ	武蔵野	雑木林
14	5	ギンラン	武蔵野	雑木林
15	5	コオニユリ	奥多摩	石灰岩地
16	5	ミシマサイコ	奥多摩	石灰岩地
17	6	ウラギク	管理	バックヤード
18	6	ホソバハマアカザ	管理	バックヤード
19	6	シオクグ	管理	バックヤード
20	6	イセウキヤガラ	管理	バックヤード
21	6	ハマツメクサ	管理	バックヤード
22	6	イネ「対馬」	管理	バックヤード
23	6	コウキヤガラ	管理	バックヤード
24	6	サクラタデ	管理	バックヤード
25	6	チョウジソウ	管理	バックヤード
26	6	オグルマ	管理	バックヤード
27	6	ノウルシ	管理	バックヤード
28	6	ヤナギトラノオ	管理	バックヤード
29	6	クサソテツ	奥多摩	湿生林
30	6	シュンラン	武蔵野	雑木林
31	6	カラタチバナ	管理	伊豆極相林
32	6	ヤブコウジ	管理	伊豆極相林
33	6	イヌゴマ	管理	バックヤード
34	6	ギンロバイ	奥多摩	石灰岩地
35	6	コシダ	奥多摩	石灰岩地
36	6	ホトトギス	管理	奥多摩

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
37	7	ヤブマオ	武蔵野	雑木林
38	7	クコ	武蔵野	礫地
39	7	ハマウド	武蔵野	礫地
40	7	ヒメミカンソウ	武蔵野	礫地
41	7	ケカモノハシ	伊豆	海岸砂地
42	7	ヤマジソ	伊豆	海岸岩地
43	7	イタビカズラ	管理	伊豆極相林
44	7	オオイタビ	管理	伊豆極相林
45	7	ツルナ	伊豆	海岸砂地
46	7	トゲナシサルトリイバラ	伊豆	火山性草地
47	7	ワニグチソウ	武蔵野	雑木林
48	7	ウラシマソウ	武蔵野	雑木林
49	8	クサネム	管理	バックヤード
50	8	ミズオトギリ	管理	バックヤード
51	8	タヌキマメ	管理	バックヤード
52	8	ホウライシダ	武蔵野	池回り
53	8	カワラヨモギ	武蔵野	礫地
54	8	センジュガンピ	管理	奥多摩
55	8	ヒガンバナ(2倍体)	管理	旧球根
56	8	ボントクタデ	管理	バックヤード
57	8	ヤマタツナミソウ	管理	奥多摩
58	8	ユウガギク	武蔵野	雑木林
59	8	クサボケ	管理	奥多摩
60	8	イヌゴマ	奥多摩	落葉広葉樹林
61	8	イシミカワ	奥多摩	湿生林
62	8	ヒメキンミズヒキ	奥多摩	落葉広葉樹林
63	8	ウツボグサ	奥多摩	落葉広葉樹林
64	8	ヤブツルアズキ	奥多摩	落葉広葉樹林
65	8	ハダカホオズキ	奥多摩	落葉広葉樹林
66	8	ツリフネソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
67	8	キッコウハグマ	奥多摩	落葉広葉樹林
68	8	ハグロソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
69	9	キハダ	武蔵野	低木
70	9	タンキリマメ	奥多摩	湿生林
71	9	オトコエシ	伊豆	海岸岩地
72	9	ハマナデシコ	伊豆	海岸岩地
73	9	ハマボッサ	伊豆	海岸岩地
74	9	ヤマイ	管理	バックヤード
75	9	マルバアキグミ	伊豆	海岸岩地
76	10	ヒナワチガイソウ	管理	フクジュソウ園

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
77	10	ミチノクフクジュソウ	管理	フクジュソウ園
78	10	ホラシノブ	奥多摩	落葉広葉樹林
79	10	リョウメンシダ	奥多摩	湿地エリア
80	10	リュウノウギク	奥多摩	石灰岩地
81	10	クチナシ	管理	極相林
82	10	カワラノギク	武蔵野	礫地
83	10	ハマダイコン	伊豆	海岸砂地
84	10	ツルナ	伊豆	海岸砂地
85	10	ハマヒルガオ	伊豆	海岸砂地
86	10	カラスノゴマ	武蔵野	雑木林
87	10	ナギナタコウジュ	武蔵野	雑木林
88	10	オニグルミ	武蔵野	礫地
89	11	ヒメシャガ	奥多摩	石灰岩地
90	11	キクタニギク	奥多摩	石灰岩地
91	11	ウラハグサ	奥多摩	石灰岩地
92	11	アズマヤマアザミ	奥多摩	石灰岩地
93	11	アズマヤマアザミ	奥多摩	石灰岩地
94	11	ハンショウヅル	奥多摩	石灰岩地
95	11	リュウノウギク	奥多摩	石灰岩地
96	11	ムラサキニガナ	奥多摩	石灰岩地
97	11	ホンモンジスゲ	奥多摩	落葉広葉樹林
98	12	ユキノシタ	武蔵野	池回り
99	12	センリョウ	管理	旧球根
100	12	アオキ	管理	奥多摩
101	12	カワラノギク	武蔵野	礫地
102	12	シバヤナギ	奥多摩	落葉広葉樹林
103	12	ニオイタチツボスミレ	奥多摩	落葉広葉樹林
104	12	ジュウニヒトエ	奥多摩	落葉広葉樹林
105	12	コチャルメルソウ	奥多摩	湿生林
106	3	シバオノエヤナギ	武蔵野	池回り
107	3	マテバシイ	武蔵野	雑木林
108	3	ハタザオ	武蔵野	礫地
109	3	オヘビイチゴ	管理	バックヤード
110	3	シロバナサクラタデ	武蔵野	池回り
111	3	マツバスケ	武蔵野	池回り
112	3	マツバイ	武蔵野	池回り
113	3	コウガイゼキショウ	武蔵野	池回り
114	3	オグルマ	武蔵野	池回り
115	3	ノジヌマトラノオ	武蔵野	池回り
116	3	ミゾカクシ	武蔵野	池回り

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
117	3	ミズドクサ	武蔵野	池回り
118	3	コナラ	武蔵野	雑木林
119	3	アカガシ	武蔵野	雑木林
120	3	ノリウツギ	武蔵野	池回り
121	3	イヌシデ	武蔵野	雑木林
122	3	アブラガヤ	武蔵野	池回り
123	3	クサソテツ	奥多摩	池回り
124	3	ハコネウツギ	武蔵野	雑木林
125	3	クコ	奥多摩	池回り
126	3	センリョウ	管理	伊豆極相林
127	3	クチナシ	管理	伊豆極相林
128	3	ホンモンジスゲ	奥多摩	落葉広葉樹林
129	3	タカオスミレ	奥多摩	落葉広葉樹林
130	3	エイザンスミレ	奥多摩	落葉広葉樹林
131	3	ヤマルリソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
132	3	ツルマサキ	奥多摩	落葉広葉樹林
133	3	ミチノクフクジュソウ	管理	フクジュソウ園
134	3	ムラサキニガナ	管理	フクジュソウ園
135	3	フクジュソウ	管理	フクジュソウ園
136	3	ミチノクフクジュソウ	管理	フクジュソウ園
137	3	トボシガラ	奥多摩	落葉広葉樹林
138	3	オドリコソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
139	3	シンミズヒキ	奥多摩	落葉広葉樹林
140	3	ルリソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
141	3	コクサギ	奥多摩	落葉広葉樹林
142	3	オカタツナミソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
143	3	タカオスミレ	奥多摩	落葉広葉樹林
144	3	コチャルメルソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
145	3	ナミキソウ	武蔵野	礫地
146	3	ムラサキニガナ	管理	フクジュソウ園
147	3	モクレイシ	管理	伊豆極相林
148	3	シチトウスミレ	伊豆	海岸岩地
149	3	スズメノカタビラ	武蔵野	路傍
150	3	ムラサキニガナ	管理	フクジュソウ園
151	3	ナシ	武蔵野	果樹林
152	3	オオツクバネウツギ	奥多摩	落葉広葉樹林
153	3	ウラハグサ	奥多摩	石灰岩地
154	3	タチツボスミレ	奥多摩	落葉広葉樹林
155	3	アキノキリンソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
156	3	ヌマトラノオ	奥多摩	落葉広葉樹林

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
157	3	ジュウニヒトエ	奥多摩	落葉広葉樹林
158	3	ヌカボシソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
159	3	タチタネツケバナ	奥多摩	石灰岩地
160	3	ヒメニラ	奥多摩	落葉広葉樹林
161	3	ケスゲ	奥多摩	落葉広葉樹林
162	3	ヤマズズメノヒエ	奥多摩	落葉広葉樹林
163	3	ニシキギ	武蔵野	雑木林
164	3	ツリバナ	武蔵野	雑木林
165	3	ヤマハギ	武蔵野	雑木林

5 植物多様性に関する講座

植物多様性センターでは植物や生物多様性に関する講座を、事前申し込み制で実施している。令和3年度の実施状況を、以下に示した。

No.	実施日	時間	題	講師	参加人数
1	7月10日	13:30~16:00	第13回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウム（オンライン）	藤森 祥平氏 大城 温氏 藤井 健太氏	27
2	8月22日	10:00~12:00	親子で養蜂家体験ミツバチとともだちになろう！	小野 俊英氏 杉沼 えりか氏 御園 孝氏	11
3	12月12日	13:30~15:00	センター講座 冬芽博士になろう！	センター職員	19
4	1月23日	13:30~15:30	ガイドツアースペシャル	センター職員	中止
5	2月27日	13:30~15:30	伊豆諸島の植物多様性と保全の最前線（オンライン）	上條 隆志氏	24
6	3月13日	13:30~15:30	東京都レッドリスト植物たちの今（オンライン）	内野 秀重氏	25
合計					106

※中止は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため。

6 植物多様性センター外部の展示

植物多様性センターでは生物多様性保全の普及を目的として、他の公園・植物園等においてパネルの展示を実施している。令和3年度の実施状況を、以下に示した。

No.	月日	題	場所
1	4月1日～4月30日	植物多様性センターの紹介、生物多様性のはなし	東南植物楽園(沖縄県)
2	4月1日～5月31日	生物多様性のはなし	国営武蔵丘陵森林公園(埼玉県)
3	6月1日～6月30日	植物多様性センターの紹介、生物多様性のはなし	七北田公園都市緑化ホール(宮城県)
4	8月17日～10月31日	生物多様性のはなし	小峰公園サービスセンター
5	10月1日～11月30日	植物多様性センターの紹介、生物多様性のはなし	東南植物楽園(沖縄県)
6	3月1日～3月31日	植物多様性センターの紹介、生物多様性のはなし	豊橋総合動植物公園(愛知県)

7 植物多様性センター外部の講座

植物多様性センターでは植物保全や生物多様性保全の普及を目的として、依頼に応じて外部での講座を実施している。令和3年度の実施状況を、以下に示した。

No.	月日	参加人数	題	場所
1	6月3日	21	学んで楽しもう 植物との長いおつきあい	調布市西部公民館

8 学習プログラム

植物多様性センターでは原則1か月に2団体を上限として、小学校や各種団体向けに、植物をテーマとした学習プログラムを実施している。令和3年度の実施状況を、以下に示した。

No.	月	団体名	人数	No.	月	団体名	人数
1	6	日本大学生物資源科学部	15	7	11	女子学院中学校・高等学校	32
2	6	東京都立大学プレミアムカレッジ	26	8	11	調布市立北ノ台小学校	143
3	7	日本大学生物資源科学部	25	9	12	東京環境工科専門学校	4
4	9	調布市立北ノ台小学校	142	10	12	葛飾区生物多様性推進協議会	17
5	10	東京都立調布特別支援学校	51	11	12	小金井市子供会父兄連合会	17
6	10	調布市立緑ヶ丘小学校	59	12	1	調布市立北ノ台小学校	135
合計							666

V. その他

1 来館者数

令和3年度及び過去2年間の植物多様性センター内情報館の来館数を、以下に示した。なお令和3年度は新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、4月1日～6月3日、1月12日～3月2日の期間は臨時休園措置を取った。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H31 / R1	4,572	4,087	2,354	2,160	1,933	2,280	1,971	2,391	1,950	2,665	3,991	3,498	33,852
R2	0	0	2,860	2,223	2,466	2,710	3,131	3,335	1,832	0	0	0	18,557
R3	0	0	2,298	2,132	1,720	2,796	2,557	3,457	2,418	1,075	0	1,227	19,680

